

学校名：兵庫県立千種高等学校

1 学校教育目標

郷土を愛する心と純真素朴な気風を育み、たくましい身体と強い意志をもって自立し、命と人権を大切に社会に貢献する、こころ豊かで自立した人づくりをめざす。

2 重点目標

- ①地域になくなくてはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。
- ②特色ある3類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。
- ③教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。
- ④互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。

4 総合的な学校関係者評価

- ・幼小中高連携一貫教育推進事業は地域の生徒の保護者、家族等も積極的な参加もあり地域の教育方法として素晴らしい事業だと思う。
- ・すべての異年齢の生徒が参加交流は生徒の新しい思考を生む場となる。
- ・こうした事業は幼小中高の小規模園、校でこそ取り組むことができ、効果の上がる事業と思えます。
- ・ある在校生の両親に千種高校に入って本当によかった、「先生が積極的に放課後に理解できなかった様子を察して、再三指導して頂くので塾に行く必要がない」といって喜んでいきます」の話を聞きました。
- ・日頃の挨拶及び登下校の態度は素晴らしいと思います。
- ・今、高校の評価で千種高校が宍粟市内で一番人気があるとよく耳にします。

3 自己評価結果

※評価点は、4点満点

○：良好な評価 ◇課題等

実践目標	実践項目	31年度評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
1 地域になくなくてはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。	ホームページの充実を図り、学校の様子を随時発信する。	3.9	3.8	○授業の様子や部活動結果などきめ細かく情報発信できたと思う。 ○ホームページだけでなく、千高だよりなどよく発信できた。 ○ブログ以外のテンプレートが活用できた。 ◇担当教師に負担がかかり過ぎているように思う。 ◇ホームページ業務を軽減した方がよい。	・ホームページ、千高だよりなどで学校の様子がよくわかるが、そのために先生方の業務が過度にならない様にすることも大切である。  ・中高連携の環境美化活動や各種の町内外へのイベント参加は地域の活性化につながり、また地域との連携を深める意味で大変重要な行事だと思うので、これからも推進して欲しい。  ・イベントや行事への参加状況から、積極的、誠実、もくもくと動くとの地域評価を得ている。
	学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	3.6	3.8	○オープンスクールや連携授業で開かれた学校になっている。 ◇オープンスクールへの保護者の参観が少ない。	
	生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	3.8	3.9	○「地域になくなくてはならない学校としての役割を果たせていると思う。 ○マラソン大会を合同ですること地域の方の関心も多くなった。 ◇地域との交流が多いことは良いと思うが、行事が多すぎるように思う。 ◇千種町以外のイベントへの出演を精選した方がよい。	
	千種町園小中高連携一貫教育推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する中で、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	3.8	3.6	○連携行事や就業体験で十分実施されている。 ○宍粟市内の中学校からの評判が良くなっている。 ○千種中学校からの入学率が増加した。	
	行事や授業を通じて「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	3.6	3.6	○行事や授業を通して、園小中高が満遍なく交流できている。 ◇本年度の連携行事の反省を生かし、来年度以降に反映させる。	
7 特色ある3つの類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。	挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	3.4	3.4	○生徒会中心のあいつ運動をよく行っている。 ○朝の職員立ち番から、気軽にあいさつができる雰囲気になっている。 ◇元気な挨拶ができるよう指導する。 ◇頭髪や服装の乱れを自ら直すことができるよう指導する。	・進路指導については、細かく丁寧に進め、決定するまで世話して下さることは大変ありがたい。  ・小規模校だからこそできる少人数での授業は、生徒も緊張感をもって授業を受けることができるのでよいと思う。  ・スクールガイド2019の裏面にあるスローガン「小さな学校で大きな夢を」は分かり易く、インパクトもあるのもっと広めて欲しい。  ・地域の青年団的要因に積極的に参加。次世代の担い手として頑張っている。  ・部活もよく活動している。野球部が元気なのは非常にうれしく思う。  ・目標を持つての入学、勉強にも方向性よく、最高学府への進学も増加。全体的な底上げができている。
	教科指導・総合的な学習の時間等を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	3.5	3.4	○1年生の米作りを通して、連帯感を高めることができた。 ○少人数の授業では表現できている。 ◇学級全体の授業でも表現できるようにすることが課題である。	
	ふるさと貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	3.6	3.6	○それぞれで活動することによって自己有用感が高まっている。 ○自己有用感については徐々にではあるが向上しているように思う。 ○今まで気づけなかった自分の力を見つけられる機会が多くあり、自信をつける生徒も増えている。 ◇ふるさと貢献活動によって、クラブ活動に影響ができてきているところもある。	
	部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.5	3.5	○生徒会中心に各委員がよく活動している。 ○生徒会で思いやりボックスを作成し、発表していることはとても良いことである。 ○よく活動しており、野球部と数学理科活動サークルがよい成果も収めた。	
	進路説明会やLHR・面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.4	3.6	○一人の生徒に多くの教員が関わり、個に応じた指導ができている。 ○適宜面談を実施し、進路の意識付けをしていると思う。 ○進路を考えるLHRを実施した。	
	18 11 体育的諸活動を通して、心身を錬磨し、将来の社会生活でたくましく生きる体力・精神力を養う。	3.4	3.6	○中高合同体育祭やマラソン大会は成功したと思う。 ○アクティブや体育の授業で体力・精神力が養われていると思う。	

	実践目標	実践項目	31年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
12	教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善を行う。	3.4	3.3	○それぞれ工夫されていて勉強になる。 ○タブレットや視聴覚機器をよく利用されている。 ○他の授業を見に行く余裕がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目において適切な改善策が示されている。</li> <li>先生方の手厚いサポート、真剣な取り組みが伝わってくる。</li> <li>進路指導も充実していると思う。</li> <li>教師との交流がなく、個々に対する評価が出来ないが、生徒の様子や登下校時の表情から良好と推察する。</li> </ul>
13		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	3.0	3.0	◇授業の研修会はもっとするべきだ。 ◇年に一回他の先生の授業を見に行く機会を設け、情報交換をする。	
14		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.5	3.4	○「アクティブ」の授業や総合的な学習の時間では、地域人材の活用がなされている。	
15		生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	3.4	3.6	○少人数の授業が多いため、個に応じた指導がしやすい。 ○放課後等、職員室前の机でよく指導されている。	
16		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	3.0	2.9	◇課題が必ずしも効果があるとはいえないが、効果的な課題の出し方を研究したい ◇なかなか家庭学習の定着は難しい。	
17		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	3.0	3.6	◇個々の生徒に対して学力に応じた課題を与える。 ◇欠点保持者の補習を有効に活用する。	
18		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.3	3.5	○家庭連絡を通して保護者と情報交換がよくとれている。 ○夕方留守番電話になるため、保護者からの連絡が難しくなっている。	
19		生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.5	3.6	○進路ガイダンスなどが多く実施されている。 ○進路に関する情報はまだまだ増やしていくべきだ。	
20	互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。	マナーや規律、規範意識を高める取り組みを、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.5	3.4	○生徒会の生徒が自主的にしてくれている取組が大切である。 ○服装の乱れが気になる。 ○自律心や自治意識を育てていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の活用により、トラブルが増えないよう全校生が情報モラルの問題に真剣に取り組むことが大切である。</li> <li>情報モラルにおいて、平成29年12月に「文部科学大臣賞」を受賞したことは、大変名誉なことなので引き続き取り組んでいただきたい。</li> <li>夏休み中に行われた「インターネットサミットin Chikusa2019」は安全なネット利用を知ってもらいよい機会なので、子どもから大人まで、もう少し規模(参加人員、会場等)を広げてはどうか？</li> <li>縦割り一貫教育のよき姉の領域を弁えよく頑張っている。</li> </ul>
21		生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	3.6	3.4	○文化祭や体育祭などの学校行事で、よいクラス作りがされている。	
22		生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	3.6	3.6	○日頃何気ない声かけをしている教師が多いのが良い。	
23		防災教育や安全教育を、ホームルームや学校全体で行う。	3.3	3.4	○粉末消火器を使った訓練はよかった。 ○教職員全員が、災害時に必要な物品がどこにある等しっかり把握する必要がある。	
24		人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。	3.1	3.4	◇テーマや時間をきめて取り組んでいくべきだ。 ◇普段の授業でも人権に関して指導したい。	
25		教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	3.4	3.8	◇生徒会は活動しているが、全校生へいきわたっていない。 ◇一定の成果はあるが、トラブルは起こっている。 ◇メディアコントロールについてももう少し周知する必要がある。	
26		キャンパスカウンセラーと連携を密に取るなど、特別な支援を要する生徒や悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	3.5	3.5	○生徒が相談しやすい体制がとれている。	
27		ホームルーム活動等を通じて、いじめ未然防止に向けた取組を行っている。	3.4	3.4	○いじめアンケート等を活用しながら、細かく生徒の様子を共有し、未然防止につながっている。 ○日頃から生徒の変化に気づくように心がけ、異変があればすぐに情報を共有できる体制ができていく。 ○SNSでの悪口の書込からのトラブルが依然として多い。	
28		自然や人と関わる体験活動、食育等を通じて、心身ともに健康で命を大切にす生徒の育成に努めている。	3.6	3.6	○給食は栄養がしっかりと摂れるからよい。 ○残食も減っている。	